



※一般質問の内容は議員自身が2月定例会議事録に基づき記述しています。

QRコードを読み取り、令和3年2月定例会を選択すると視聴できます。



のもと たかゆき
野本 貴之 議員
(芙蓉)

令和2年度コロナ禍の小学校の英語教育

問 令和2年度の小学校の英語教育の成果と課題、今後の取組について伺う。

教育長 当初の年間指導計画は、臨時休業とコロナ禍の対応で修正されたが、コロナ禍に対応した授業を進めることができた。課題はコロナ禍でコミュニケーション力の向上のための指導が十分にできなかったこと。各校ではICTの活用や発話方法の工夫等で直接対話しないのでできる工夫をしている。これらの実践を共有し、英語教育のさらなる充実を目指していく。

問 英語教科の評価の取組について伺う。

教育長 英語は話すことが一番重要なので、どう評価するかは小学校の先生方は今まで経験したことがない。3月に検証をしている。

図書館の読書バリアフリーの推進を！



いなば こうじ
稲葉 晃司 議員
(蒼天)

富士医療圏の現状と課題そして今後 地域医療を守るために～2021～

問 富士宮市立病院でクラスターが発生した場合の対応はどうか。

病院長 1つの病棟で1人の感染が判明した場合、院内対策本部を立ち上げその病棟を閉鎖し当該病棟への新規入院患者受入れを中止する。入院を予定していた患者さんについても延期していただき、救急患者の受入れもできなくなる。また、濃厚接触者の確認を行いPCR検査の結果5人以上の陽性者が発生した場合、クラスターの発生となり発生した病棟を感染対策病棟とし、院内を陽性者のレッドゾーン、疑似感染者のイエローゾーンにエリア分けし、14日間の新規陽性者が発生しない状況までその病棟の管理閉鎖を行う。

問 図書館の読書バリアフリーの現状の対応と課題について伺う。

部長 図書館では資料の提供を中心に障がい者サービスを行っている。また、ボランティア団体の皆様に毎年、点字図書や録音図書を作成して図書館に寄贈していただいている。課題は所蔵資料が少ない、電子書籍などインターネットを活用した読書環境の整備が進んでいないこと。障がいがある方のニーズに合ったサービス提供について今後検討していく。

問 ディスレクシア^{*}の小中学生が市内各校で約50名在籍している。学校図書館と各市立図書館と読書バリアフリー連携について伺う。

部長 学校図書館では、デジタイズ図書や音声読み上げ対応電子書籍等の配架が進んでいない。読書バリアフリーの推進に向けて、市立図書館と学校の連携の在り方を検討する。

^{*}ディスレクシア=学習障害 (LD) の一つ。文字がばらばらに見える、書かれている文字を理解することが難しい、学習障害。

問 富士医療圏において公立病院は分散しているほうが感染症対策を展開していくうえで得策なのか。病院長の見解を伺う。

病院長 富士医療圏の新型コロナウイルス感染症への対応は当初、感染症指定医療機関の指定が2次医療圏で1病院、病床は6床であったため、病床数やマンパワーの不足により1医療機関では対応できなくなり、当院も感染症対策病棟を設置した。富士市立中央病院でクラスターが発生し、救急患者の受入れを12月中旬から1月中旬までの約1か月間で71件の受入れを行っており、こうした状況下で、公立病院が分散して存在する必要性が感じられた。富士圏域約40万人の診療域の中で、安定した医療の提供を考えた場合、富士宮市、富士市の双方に公立病院があり不採算医療や高度先進医療について、お互いの得意分野の充実を図り、双方で困難が生じた場合、協力し合うような病病連携を行い、富士医療圏の医療を確保することが重要で今回のケースはまさにその状況であった。